

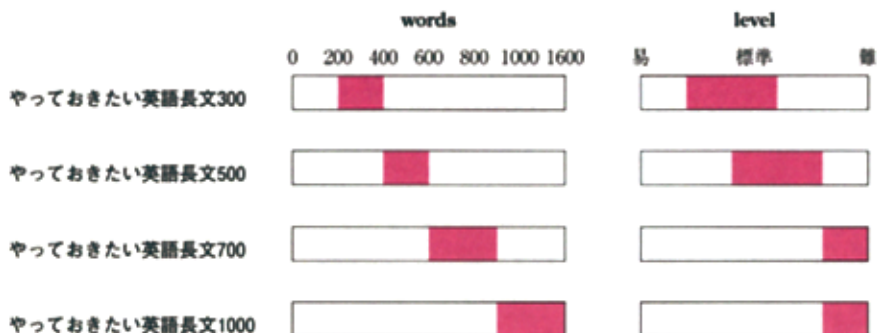
# はじめに

大学の入試問題では、読解問題が最も大きな割合を占めていますし、その割合はますます高くなっています。読解問題を解けるようにすることは、受験を突破するうえで避けては通ることができません。それでは、読解問題を解くためには、どのような力が必要なのでしょうか。語い力に加えて、一文一文の構造を正確に捉え、内容を把握する力が必要です。さらに、複数の文が集まって文章が構成されている以上、文と文のつながり、すなわち文脈を読み取る力も必要です。また、今日的な話題が出題されるが増えています。そうした話題について知っておくことも、内容を理解するためには大切です。

こうした力をつけるためには、何よりも良い英文を読み、良い問題を解くことです。そこで、これまでに出版された問題の中から、英文の長さや難易度を基準に繰り返し読むに値する英文を選び、4冊の問題集にまとめました。設問は、ある文章に対して問うべきこと—内容の理解と英語の理解—という観点から、ほぼ全面的に作り変えてあります。

やっておきたい英語長文500は、最も出題頻度の高い400語から600語の標準からやや難しいレベルの英文20題で構成されています。内容の理解を問う客観問題から和訳問題、内容説明問題まで幅広く扱うことで、ほとんどの大学の読解問題に対応できる高度な読解力の養成を目指します。また、設問を解く際の着眼点や考え方、論旨の展開を読み取るうえで知っておくべきことを **Advice** としてまとめてあります。

やっておきたい英語長文500を終えた人は、やっておきたい英語長文700に挑戦してください。



本書が皆さんの想いの実現に向けて、役に立つことを願ってやみません。それでは、問題1にトライしてみましょう。

最後に、本書を改訂するにあたり、Kathryn A. Craft 先生に英文校閲を行っていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

著者記す

# 本書の使い方

- 1 問題には語数と標準解答時間を示してあります。標準解答時間を目標に問題を解いてください。
- 2 解説には、解答と設問解説、要約、構文・語句解説があります。設問解説を読み、解答を確認してください。設問解説中の第1・2段落第5文といった表記は、構文・語句解説の番号に対応しています。
- 3 構文・語句解説では、訳例と設問解説で触れなかった、構文および語句の解説があります。設問以外の箇所理解できなかった部分を確認してください。
- 4 構文・語句解説では、問題文から下線を省き空所を埋めた形で英文を再録してあります。英文を繰り返し読んでもらいたいからです。こうすることが、速読の練習にもなりますし、語いの定着にもつながります。また、このときは、英文の構造よりも、内容・論旨を追うことを心がけてください。確認のために要約を活用してください。
- 5 英文を読む際には、音読とリスニングを組み合わせることで、リスニング力も強化できます。英語のネイティブ・スピーカーが読み上げた音声を用意されていますので、利用してください。

音声は、パソコンやスマートフォンから下記の URL にアクセスして聴くことができます。QR コードからもアクセスできます。

<https://www.kawai-publishing.jp/onsei/01/index.html>



・ファイルは MP4形式の音声です。再生するには、最新版の OS をご利用ください。

## 解答

- 問1 自然の脅威や大災害を原因とする人的、経済的両面の損失を減らし、経済面でさらには軍事面で隣国より優位に立ちたいため。(57字)
- 問2 自然の脅威それ自体を変える方法とその影響を減らす方法の組み合わせ。(33字)
- 問3 releases about 100,000 times as much energy as did
- 問4 ウ. without
- 問5 気象改変計画は、うまくいっても失敗しても、この分野での大規模な活動の見通しをきわめて不確かなものにする様々な問題をもたらすことになる。
- 問6 不利益が利益よりも大きくなるようなカテゴリー。(23字)
- 問7 ア. Nor does it stop there.

## ▶▶ 設問解説 ◀◀

- 問1 下線部は「気象改変」という意味。第2段落第1文の前半に「気象を変えようとするもっともな理由が1つある」とあり、続いて「それ(=気象を変えようとするもっともな理由)は、自然の脅威や大災害を原因とする人的、経済的両面の損失を減らすことである」と述べられているので、理由の1つは「自然の脅威や大災害を原因とする人的、経済的両面の損失を減らすこと」である。また、第2段落第2文に、「他にも理由はある」とあり、続いて「その(=他の理由)中には、経済面でさらには軍事面で隣国より優位に立ちたいという願望も含まれるかもしれない」と述べられているので、他の理由が「経済面でさらには軍事面で隣国より優位に立つこと」である。したがって、これらの理由をまとめればよい。

modification 「改変、修正」

- 問2 下線部(2)を含む文は、「これら2つの方法は、互いに相容れないものである必要はなく、場合によっては組み合わせることで最良の結果が得られることもある」という意味であり、下線部の「組み合わせ」とは、These two methods「これら2つの方法」の組み合わせであると考えられる。These two methods は、第2段落第3文の「そうした(=自然の)脅威それ自体を変えること」と「その影響を減らすこと」を指している所以、この2つをまとめればよい。

□ combination 「組み合わせ」

- 問3 下線部(3)を含む文は、To illustrate this 「これを説明するために」から始まり、this は前の文「大気の破壊力は、人間がそれに及ぼす制御力をはるかに超えている」を指しているのので、下線部を含む部分が、「大西洋や太平洋上に発生する典型的な冬の嵐が、最初の原子爆弾よりも多くのエネルギーを放出する」という内容になるように並べ換えればよい。X times as + 原級 + as ... 「…のX倍～」のXに about 100,000 を置いて、releases about 100,000 times as much energy as とすれば、「…の約10万倍のエネルギーを放出する」となり「より多くのエネルギーを放出する」という意味が表現できる。なお、releases energy about 100,000 times as much as と並べ換えるのは、前提となる release energy much という表現がないので、不可。また、比較対象を表す2つめの as 以下では倒置が生じることがあるので、最後に did を置けばよい。

例 This towel absorbs three times as much water as does a common cotton towel.

「このタオルは、普通の Cotton のタオルの3倍水を吸収する」

□ release 「を放出する」

- 問4 空所(4)を含む文は、前に述べたことが原因となって結果として生じることを述べるときに用いられる Thus 「したがって」から始まっており、直前の文には「大気への干渉は、大気が2つの対照的な状態の間でうまくバランスがとれている場合のように、うまくいく特定の状況がある」ことが述べられている。したがって、without を入れれば、「雨を降らせるための雲の種まき作戦は、雲が発達する良好な条件がなければ決してうまくいかないが、厚い雲の発達がすでに進行しているなら、成功するかもしれない」となり、文脈が自然につながりとなる。なお、cloud-seeding 「雲の種まき」とは、雲に直接ヨウ化銀やドライアイスといった化学物質をまくことで、水蒸気が集まる核を人工的に作り、雲が持つ潜在的降水量を最大限に引き出す技術のこと。
- 問5 whether successful or not 「うまくいっても失敗しても」が主語と動詞の間に挿入されている。whether の後ろに they (= weather modification projects) are を補って考えることができるが、whether X or Y が挿入で用いられている場合は、「XであろうとYであろうと」と意味を取ればよい。

例 She is always cheerful, whether sick or well.

「彼女は調子が悪くてもよくても、いつも明るい」

which 以下は a variety of problems を修飾する関係代名詞節。節内では the prospect of large-scale activity in this field が make O C 「OをCにする」のOになっている。